



システム構成図

説明は次ページをご覧ください

◆◆概要◆◆

揚水式発電所の運転は通常、需要のピークに合わせた運用を行っています、具体的には昼間に発電を行い、夜間の余剰電力で揚水を行います。

山深いダム地形は、溪流釣りのマニアにとって絶好のポイントになり、多くの釣人が入山します、遠来であったり、揚水式発電所の運用に知識の無い人々は、上部ダムに昼間の低水時に入り込みますから、夜間の揚水で水位が急上昇すると、水難事故の恐れがあります、揚水式発電所の運用について周知する広報と、揚水開始時の警報を行うためのシステムです。

紹介するシステムの規模は、ダム管理所の警報制御局(警報操作卓)、現場の警報中継局が各1ヶ所、上流警報局が3ヶ所となります。

運用の形態は、平常時は設定時刻に自動で警告放送(定時放送)を行い、揚水開始前に指令を受けて、音声放送とサイレン疑似音(音声合成)による警報吹鳴(組合警報)を行います、又、手動操作により警報操作卓から任意に警告放送、警報吹鳴、マイク放送を行うことができます。

◆◆特長◆◆

1. 警報音のレベルチェックは、設定時刻に自動的に検定を行います、又、放送開始前に自動で検定を行う設定も可能です。
2. 警報操作卓から、遠隔操作で警報中継局の各種設定変更ができます。
3. 警報吹鳴、警告放送、設定変更の履歴は、警報制御局に記録、保存されます。